

ポリオ予防接種のワクチンが変更に

9月から、ポリオ予防接種は、**生ポリオワクチン(口から飲む)が廃止され、不活化ポリオワクチン(注射)に変更になります。**

生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンへ

今まで使用していた「生ポリオワクチン」は、免疫をつける力が優れていた一方で、まれにポリオにかかったときと同じ症状が出ることもありましたが、接種後麻痺^{まひ}を起こした事例は10年間で15例あり、100万人に1・4人の割合。そのため、厚生労働省は、9月から定期予防接種に使用するポリオワクチンは、生ポリオワクチンを廃止し、全て「不活化ポリオワクチン」とする方針を決めました。

「不活化ポリオワクチン」とは、ポリオウイルスを殺し(不活化)、免疫を作る成分を取り出して病原性をなくして作ったものです。ウイルスとしての働きはないので、ポリオと同様の症状が出るという副反応はありません。ただし、通常の不活化ワクチンに起こりうる副反応(発熱、接種部位の腫れや痛みなどの副反応、まれに重篤なショックやけいれんなど)については、症状が出る可能性があります。

接種回数・接種間隔について

接種対象年齢は 3カ月から7歳6カ月未満のお子さんです。

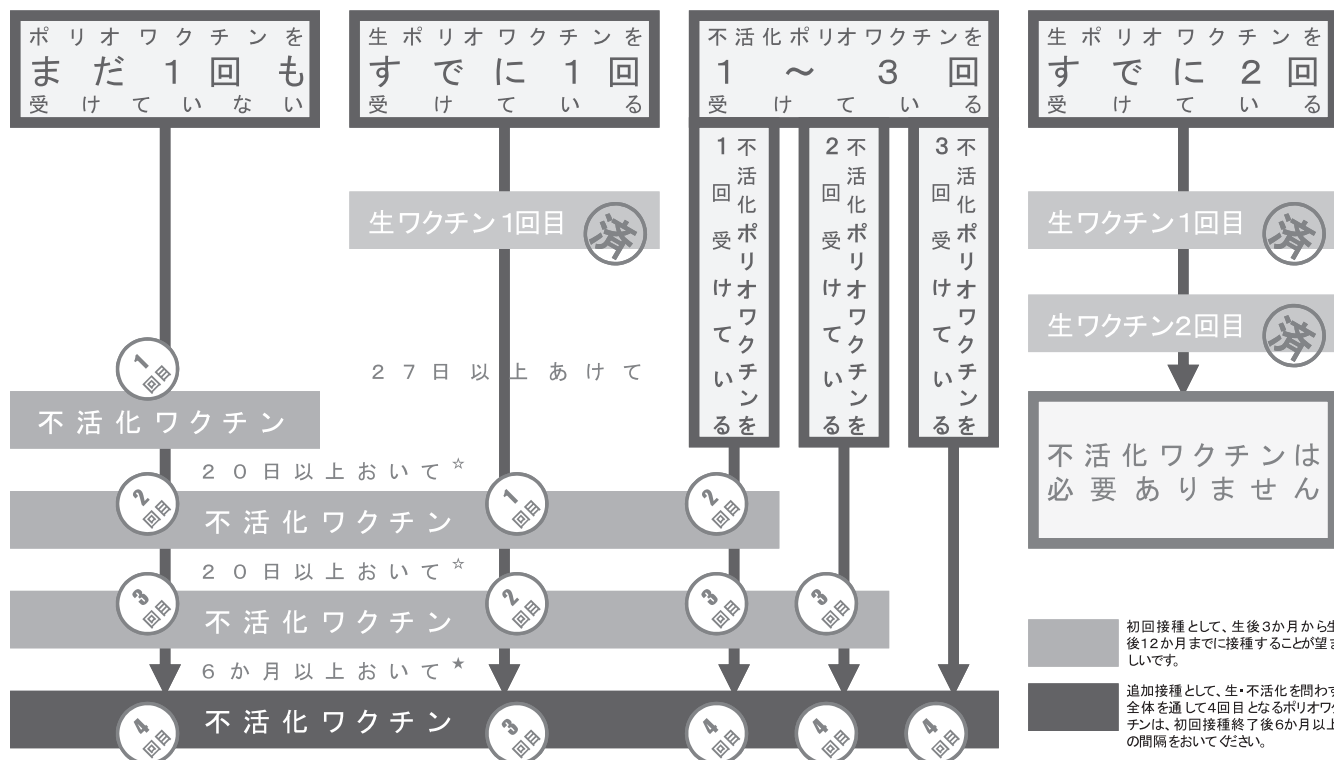
接種回数・接種間隔

接種回数	接種間隔	標準的な望ましい接種間隔
1期初回(3回)	20日以上	20日から56日まで
1期追加(4回目)※	1期初回終了後6カ月以上	12カ月以上から18カ月まで

※4回目の接種については、現在のところ(H24年7月現在)効果が確認されていないため、接種できません。臨床試験で効果が確認された後に接種が可能となります。

どうすればいいの？ポリオワクチン

単独の不活化ポリオワクチン導入(平成24年9月1日予定)から、4種混合ワクチン導入までの接種ステップ



☆20日以上おいて(20日から56日までの間隔をおくことが望ましいです)

※平成24年9月1日の導入時点では4回目の追加接種は定期接種対象外です

★6か月以上おいて(12か月から18か月の間隔をおくことが望ましいです)

現在国内臨床試験を実施中のため、データが整い次第導入予定)

(出典：厚生労働省ホームページ)

接種方法：「市保健センター」での集団接種」と「医療機関での個別接種」を実施

1 対象となる方には、7月19日に個別に通知を発送しています。

7月末日までに同封のはがきを返信された方には、必要なご案内を8月中旬ごろに送付します。

2 11月から「4種混合」ワクチン（ポリオ・百日ぜき・ジフテリア・破傷風）が開始される予定です。

※4種混合ワクチンの接種回数、間隔など詳細は、厚生労働省からまだ示されていませんが（7月現在）、従来の三種混合と同じ接種回数・間隔となる見込みです。

なお、従来の三種混合は一定期間継続されます。単独の不活化ポリオワクチンまたは三種混合を受けた場合の接種方法、接種医療機関などの詳細は、「4種混合」ワクチン開始前に、対象者にお知らせします。開始時期に3カ月となるお子さんは、「4種混合」ワクチンを接種することとなります。

集団接種と個別接種

接種方法	集団接種（完全予約制）	個別接種
実施場所	市保健センター	市内協力医療機関（調査中）
受付時間	午後1時～1時45分	
実施予定日	①24年度保健センター年間予定表「すこやか」26ページに掲載されている日程 ②追加で土曜日に集団接種日を設ける予定です。※申込状況により、こちらで接種日を指定させていただき、8月中旬ごろにお知らせします。	9月1日からの予定 ※8月中旬に市内協力医療機関のご案内を送付しますので、届きましたら各医療機関にお問い合わせください。

※9月から全国一斉に開始されるため、ワクチンの確保が難しい場合があります。
※集団接種では、9月中旬以降の土曜日を追加して実施する予定です。ご利用ください。

ポリオ（急性灰白髄炎）とは…

【感染経路】 ポリオは、「ポリオウイルス」が人の口の中に入って腸の中で増え、便の中に排せつされ、便を介して他の人に感染します。

成人が感染することもあります。多くは、乳幼児に感染します。

【症状】 ポリオウイルスに感染しても、多くの場合は、病気としての明らかな症状は現れず、知らない間に免疫ができます。しかし、感染者の1000人から2000人に1人の割合で、手や足に麻痺が現れ、その麻痺が一生残ってしまう場合があります。この麻痺については現在、有効な治療法がありません。重症の場合は、死亡することもあります。

【発症数】 日本では、1960年（昭和35年）に、ポリオ患者が5000人を超え、大流行となりました。生ポリオワクチン接種により、流行は収まり、1980年（昭和55年）を最後に、現在まで野生のポリオウイルスによる新たな患者はありません。これは、予防接種の効果によるものです。

なお、海外では、依然として流行地域（南西アジア、アフリカ諸国）があるため、感染に気付かないまま入国した方から、感染する可能性があります。免疫がないと感染します。

子どもたちへ伝えたい！
「いただきますは、
ありがとうの気持ち」

市では、うしく食育推進計画の一つとして、市内の幼稚園、保育園で食育教室を開催しています（左写真）。

牛久市食生活改善推進員が園を訪問し、会員手作りの食育紙芝居「いただきます」を実施することで、目の前にある食べ物が自分たちの口に入るまでに多くの人の思いが込められていること、食事の度に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをすることで食べ物大切にすること、作ってくれた人に感謝の気持ちを表していくことを伝えています。

今後引き続き、子どもたちへの食育はもちろん、大人の食育についても意欲的に活動していく予定です。

※この活動の模様は、6月21日、NHK「おはよう日本」で放映されました。



子どもたちへ伝えたい！
「いただきますは、
ありがとうの気持ち」